

ナント地域経済調査結果【2016年1～3月期】

～ 景気は一進一退から再び悪化へ～

はじめに

地域の経済状況を把握する「ナント地域経済調査【2016年1～3月期】」を実施し、その結果を取りまとめました。本調査は、南都銀行各支店長に対するアンケート調査を通じて、地域の景気の水準・方向性を把握することを目的とするものです。

本調査において、奈良県（三重県名張市を含む）を「北和」「中和」「東部・南和」の3つのエリアに分け、大阪府、京都府、和歌山県は各府県を1つのエリアとしています。なお、2015年4～6月期より、東部地区と南和地区を合算し、「東部・南和地区」として掲載しています。

エリアと支店所在地および支店数

エリア	支店所在地（マル数字は支店の数）
奈良県	北和地区【29か店】 奈良市⑬、生駒市⑥、大和郡山市③、天理市③、生駒郡③
	中和地区【30か店】 橿原市⑥、大和高田市③、桜井市②、御所市③、香芝市③、葛城市②、北葛城郡⑥、磯城郡③、高市郡②
	東部・南和地区【13か店】 宇陀市③、五條市①、吉野郡⑧、三重県名張市①
大阪府【19か店】	大阪市⑥、東大阪市④、大東市①、八尾市①、羽曳野市①、河内長野市①、堺市③、泉佐野市①、兵庫県尼崎市①
京都府【12か店】	木津川市③、京田辺市③、京都市②、城陽市①、宇治市①、相楽郡①、綴喜郡①
和歌山県【6か店】	橋本市②、和歌山市①、紀の川市①、岩出市①、伊都郡①

*支店が存在しない市町村がある。

【景気の水準・方向性の数値の算出方法】

景気の水準・方向性を「良い・改善＝2点」「やや良い・やや改善＝1点」「どちらともいえない・不変＝0点」「やや悪い・やや悪化＝-1点」「悪い・悪化＝-2点」の5段階で判断。エリア別の合計点を、すべて「良い・改善＝2点」とした場合の合計点で除した数値に100を乗じて算出。評価の最高は100、最低は△100となる。なお、支店規模に応じてウエイト調整を行っている。

1 景気判断の水準

1. 総合判断

今期（2016年1～3月期）の景気水準は、奈良県全体で△12.4となり、前期（2015年10～12月期）の△4.5より7.9ポイント悪化した。総合判断の水準はこれまで概ね一進一退の状況にあった

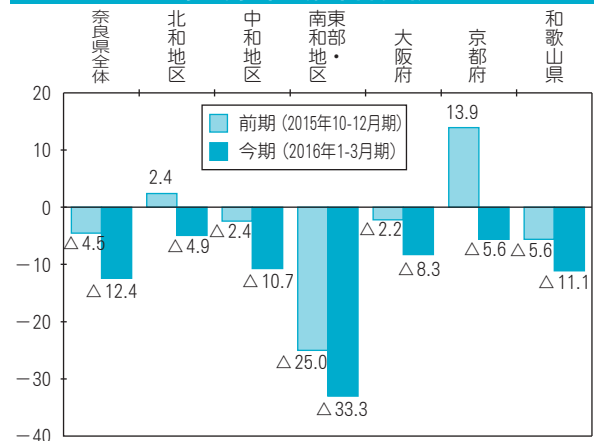
が、今期は悪化に転じた。

エリア別にみると、北和地区は前期の2.4から△4.9へ7.3ポイント悪化、中和地区は同△2.4から△10.7へ8.3ポイント悪化、東部・南和地区は同△25.0から△33.3へ8.3ポイント悪化した。

また、他府県では大阪府が前期の△2.2から△8.3へ6.1ポイント悪化、京都府が同13.9から△5.6へ19.5ポイント悪化、和歌山県は同△5.6から△11.1へ5.5ポイント悪化となった。

エリア別の景気水準は、奈良県の3地区、大阪府、京都府および和歌山県のすべてで悪化した。

景気水準（総合判断）



*大阪府、京都府、和歌山県の営業エリアは、奈良県と異なり、府県域全体を対象としていない。

2. エリア別にみた項目ごとの景気水準

(1) 北和地区

個人の2項目、企業の4項目のすべてがマイナスの水準にある。前期との比較では、6項目のすべてで悪化している。

	総合判断	個人		企業			
		消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期(2015年10-12月期)	2.4	△6.1	3.7	5.1	5.1	3.8	0.0
今期(2016年1-3月期)	△4.9	△9.8	△4.9	△2.6	△2.6	△7.7	△9.0

(2) 中和地区

個人の2項目、法人の4項目のすべてがマイナスの水準にある。前期との比較では、個人消費は

やや改善したが、個人の資金需要と企業の4項目は悪化した。

	総合判断	個人		企業			
		消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期(2015年10-12月期)	△2.4	△4.8	6.0	△1.2	△1.2	△3.7	△6.1
今期(2016年1-3月期)	△10.7	△3.6	△2.4	△8.5	△12.2	△6.1	△9.8

(3) 東部・南和地区

個人の2項目、法人の4項目のすべてがマイナスの水準にある。前期との比較では、個人消費と企業の設備投資は悪化、企業収益は改善、個人の資金需要と企業の生産活動、資金需要は不変。

	総合判断	個人		企業			
		消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期(2015年10-12月期)	△25.0	△11.1	△22.2	△28.1	△31.3	△37.5	△40.6
今期(2016年1-3月期)	△33.3	△16.7	△22.2	△28.1	△28.1	△43.8	△40.6

(4) 大阪府

個人の2項目、法人の4項目のすべてがマイナスの水準にある。前期との比較では、個人消費、企業の生産活動、収益、設備投資は悪化、個人および企業の資金需要は改善。

	総合判断	個人		企業			
		消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期(2015年10-12月期)	△2.2	0.0	△8.7	0.0	△4.3	△10.9	△10.9
今期(2016年1-3月期)	△8.3	△2.1	△4.2	△4.2	△10.4	△18.8	△10.4

(5) 京都府

個人の2項目はゼロ水準、企業の4項目はマイ

ナスの水準にある。前期との比較では、すべての項目が悪化している。

	総合判断	個人		企業			
		消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期(2015年10-12月期)	13.9	25.0	16.7	5.9	△2.9	0.0	△8.8
今期(2016年1-3月期)	△5.6	0.0	0.0	△5.9	△5.9	△8.8	△14.7

(6) 和歌山県

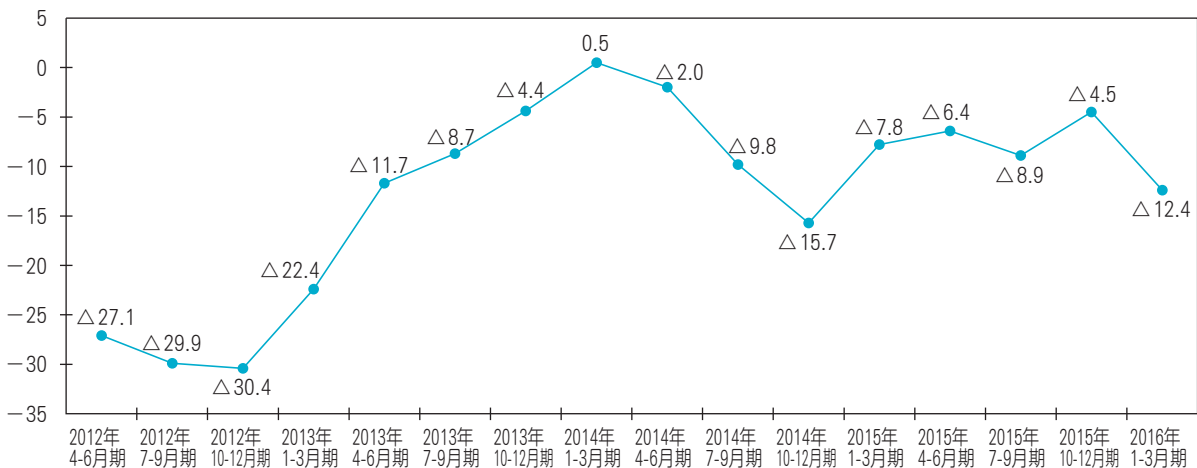
個人の2項目、法人の4項目のすべてがマイナスの水準にある。前期との比較では、個人消費および企業の生産活動、収益、設備投資は悪化、個人および企業の資金需要は不変。

	総合判断	個人		企業			
		消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期(2015年10-12月期)	△5.6	0.0	△11.1	0.0	△5.6	△22.2	△11.1
今期(2016年1-3月期)	△11.1	△16.7	△11.1	△22.2	△22.2	△27.8	△11.1

3. 奈良県の景気水準の推移

これまでの奈良県の景気水準の動きをみると、調査を開始した2012年4~6月期の△27.1から二期連続で低下した後、2012年10~12月期(△30.4)に底を打って上昇に転じ、5四半期連続で上昇。2014年1~3月期は一時的にプラスとなったものの、2014年4~6月期からは7期連続でマイナスの水準になっていた。今期は8期連続のマイナス水準(△12.4)となり、かつ前期よりも悪化した。

景気水準の推移 (奈良県、総合判断)

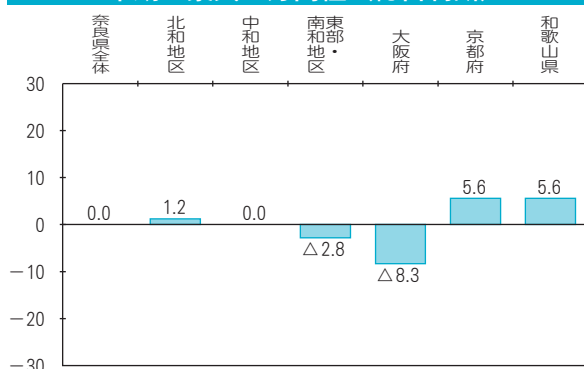


2 来期の景気の方角性

1. 総合判断

今期からみた来期（2016年4～6月期）の景気の方角性予測は、奈良県全体では0.0となり、不変の見込み。これをエリア別に見ると、北和地区（1.2）は改善、中和地区は不変、東部・南和地区（ $\Delta 2.8$ ）は悪化の予測。また、他府県では、大阪府（ $\Delta 8.3$ ）は悪化、京都府（5.6）と和歌山県（5.6）は改善の予測となっている。

来期の景気の方角性（総合判断）



2. エリア別、項目別にみた来期の景気の方角性

(1) 北和地区

来期の方角性（今期との比較、以下同様）は、すべての項目で改善の予測。特に個人の資金需要の改善幅が大きい。

	来期（4-6月期） の方角性（予測）	
総合判断	1.2	
個人	消費	1.2
	資金需要	13.4
企業	生産活動	5.1
	収益	1.3
業	設備投資	1.3
	資金需要	5.1

(2) 中和地区

来期の方角性は、個人消費および企業の生産活動、収益は悪化で、個人の資金需要および企業の設備投資、資金需要は改善の予測となった。

	来期（4-6月期） の方角性（予測）	
総合判断	0.0	
個人	消費	$\Delta 1.2$
	資金需要	6.0
企業	生産活動	$\Delta 8.5$
	収益	$\Delta 3.7$
業	設備投資	7.3
	資金需要	3.7

(3) 東部・南和地区

来期の方角性は、個人消費および企業の生産活動、収益が悪化、個人の資金需要と企業の設備投資、資金需要は改善の予測。

	来期（4-6月期） の方角性（予測）	
総合判断	$\Delta 2.8$	
個人	消費	$\Delta 5.6$
	資金需要	5.6
企業	生産活動	$\Delta 6.3$
	収益	$\Delta 9.4$
業	設備投資	9.4
	資金需要	9.4

(4) 大阪府

来期の方角性は、個人消費および企業の生産活動、収益、設備投資が悪化予測で、特に企業収益の悪化幅が大きい。個人および企業の資金需要は改善の予測。

	来期（4-6月期） の方角性（予測）	
総合判断	$\Delta 8.3$	
個人	消費	$\Delta 4.2$
	資金需要	10.4
企業	生産活動	$\Delta 4.2$
	収益	$\Delta 14.6$
業	設備投資	$\Delta 2.1$
	資金需要	4.2

(5) 京都府

来期の方角性は、個人の2項目、法人の4項目のすべてが改善の予測。特に企業の設備投資の改善幅が大きい。

	来期（4-6月期） の方角性（予測）	
総合判断	5.6	
個人	消費	5.6
	資金需要	2.8
企業	生産活動	8.8
	収益	2.9
業	設備投資	14.7
	資金需要	5.9

(6) 和歌山県

来期の方向性は、企業の生産活動は悪化、個人の資金需要は不変の予測だが、個人消費、企業の収益、設備投資、資金需要は改善の予測。

		来期(4-6月期) の方向性(予測)
総合判断		5.6
個人	消費	5.6
	資金需要	0.0
企業	生産活動	△5.6
	収益	5.6
	設備投資	5.6
	資金需要	5.6

3 奈良県内の景気の水準および方向性のまとめ

これまで一進一退の状況にあった景気は、今期(2016年1~3月期)になり悪化に転じた。来期(2016年4~6月期)についても横ばいしないしはやや悪化圏内での動きと予想する。個人においては、給与水準の改善が一部にとどまったことに加え、株価の低迷や暖冬の影響から個人消費が伸び悩んでいる。また、住宅ローンでは借換えが多く資金需要は低迷している。企業においては、全般的に大きな動きはみられないものの、個人消費伸び悩みの影響を受けて生産活動は低調。また、一部業種においては引き続き設備投資の動きがみられるが、中国経済の減速等による先行きの不透明感などから新たな設備投資に慎重な企業も少なくない。

今後については、金利が低下傾向にあるものの先行きの不透明感から設備投資は引き続き慎重な姿勢が続く。また個人消費は、耐久消費財を中心に消費税増税実施の有無を睨みながら進むことから、個人、企業とも今しばらくは限定的な動きが続くと考える。(丸尾尚史)

調査の概要

(1) 調査方法(2016年3月中旬~下旬実施)

南都銀行各支店長が、自店の営業範囲における地域経済の状況について、店頭での取引状況や取

引先企業、自治体・商工会等へのヒアリングなどにより総合的に判断した結果をアンケートで回収。

(2) 調査項目

景気の水準と方向性に関して、個人の2項目(消費、資金需要)および企業の4項目(生産活動、収益、設備投資、資金需要)について5段階で評価し、その評価に基づき総合判断を行った。

(3) 対象エリア

大阪府(兵庫県尼崎市含む)、京都府、和歌山県については府県単位とし、奈良県は以下の3つのエリアに区分している。

- ①北和地区：奈良市、大和郡山市、天理市、生駒市、生駒郡平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町
- ②中和地区：大和高田市、橿原市、桜井市、御所市、香芝市、葛城市、磯城郡川西町・三宅町・田原本町、高市郡高取町・明日香村、北葛城郡上牧町・王寺町・広陵町・河合町
- ③東部・南和地区：宇陀市、山辺郡山添村、宇陀郡曾爾村・御杖村、五條市、吉野郡吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・野迫川村・十津川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村、三重県名張市

<奈良県のエリア区分>

